

# かなじけん 神事研 ニュース 第 1 3 2 号

<http://kanajiken.net>

2010（平成22）年1月15日  
神奈川県義務教育諸学校事務研究協議会  
会長 清水章雄  
広報部長 味志由美子  
綾瀬市立天台小学校  
(0467-78-5688)

## 特集 第11回 神奈川県学校事務研究大会 大和大会

12月3日、大和市生涯学習センターにて「第11回神奈川県学校事務研究大会」を開催しました。熱気に包まれた会場の雰囲気をお届けします。

### <会長挨拶 要旨>

この大和大会には約500名の皆様に参加申し込みをいただきました。

神事研は、今でこそ会員数1400名を超えた大きな組織になっていますが、1991（平成3）年の設立当初は、5地区・約200名でスタートしました。この間、ご勇退された諸先輩方をはじめ、多数の皆様により、組織・事業等の拡大・充実が図られて参りました。そして、2年後には設立20周年を迎えます。そのため、特別委員会「設立20周年 記念誌編さん委員会」を設置いたしました。

「神事研の体系的研修制度」については、最終的には学校事務職員の生涯研修を目指すものです。当面は、初任者研修や課題別研修など、早急に必要である研修を可能な範囲で実施しています。本研究大会も体系的研修制度の中で「大会研修」と位置づけて実施しております。神事研研修は、引き続き、皆様のニーズの把握に努めつつ開催していきます。

神事研組織は、大きなものとなり、活動も充実して参りましたが、財政状況については、脆弱なものと言わざるを得ません。会の目的を達成するため、また、皆様の多様なニーズに応えるための事業は、設立当初の組織と、大幅に拡大した現在の組織とでは、内容・規模とも異なっています。しかしながら神事研財政は



固定した財源である地区分担金以外の流動的・不安定な収入に依存した状況にあります。財政状況を改善するためには、安定した財源の確保が必要です。引き続き、地区代表者会とともに、財政基盤の確立に向け、よりよい方策を研究検討していくことが重要と考えております。

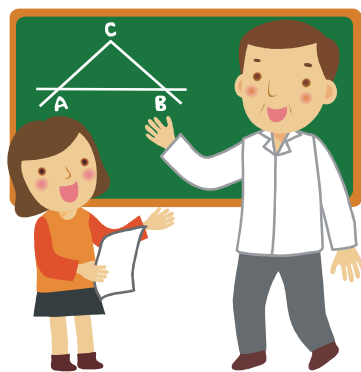
全事研神奈川支部となり、1年が経過しています。昨年度までは、手続き上の問題として全事研への派遣役員は、横浜市の皆様に頼らざるを得ませんでした。今年度は、川崎・相模原市のご協力をいただく中、役員派遣を行うことができました。今後の神事研組織を運営していく上で、大きな一歩を踏み出したと考えております。これを機会に、より多くの情報等を得る中で、会員の皆様や地区組織への情報提供・機会の拡大に結びつけていきたいと考えております。(担当：古川)

## ＜神奈川県行政説明＞ 「不祥事ゼロを目指して」

今年度の神奈川県行政説明では、神奈川県教育委員会教育局 行政課 課長代理 今部（こんべ）一良氏より、「不祥事ゼロを目指して」と題して次のようなお話がありました。

「まず始めに、具体的にどのような不祥事が発生しているのかについてですが、交通事故・交通違反を除いて最も多いのは個人情報の紛失・盗難・漏洩で、割合にして全体の三分の一を占めています。次に多いのが体罰で、約15%を占めています。その他、児童生徒に対するわいせつ行為や手当の誤った請求等があります。つまり、交通事故・交通違反を防止して、さらに個人情報に関する事故や体罰をなくせば、不祥事の大半は防げるということになります。

次に具体的な不祥事についてですが、体罰に関しては、これを行った職員は懲戒処分を受けたり、場合によっては被害児童生徒からの損害賠償請求や、暴行傷害罪などの刑事責任を追及されることもあります。対策としては、管理職や同僚



の教員が注意深くフォローしていくことにつきますと思います。個人情報の保護に関しては、外部記憶媒体を介した個人情報の紛失・盗難が特に多くなってきています。また最近は携帯電話に記録した個人情報の盗難・紛失も目立ってきています。対策としては、教職員が常日頃から個人情報を扱っているという認識を高く持つことと、学校としての個人情報の取り扱いのルールが明文化され

ていて、それが職員に周知徹底されることです。



その他、交通事故・交通違反やわいせつ行為、飲酒運転、窃盗などがありますが、どれも当たり前のことに気を付けていれば防げる不祥事ばかりです。

ところで皆さんは『神奈川県職員行動指針』（以下、指針と表記）というものがあるのをご存じでしょうか？これは県職員として取るべき行動として20項目4原則を県民に対して誓約したもので、当たり前のことが書かれています。今、県教委では今年度の不祥事防止対策として『不祥事ゼロ運動』を行っており、改めてこの指針の徹底を掲げるとともに、県立学校などではこの指針を職員の目に触れるよう、校内に掲示したり等の取り組みを行っています。また指針の中に『県民との対話を大切にする』という項目がありますが、言うまでもなく県民の方々は我々から行政サービスを受けるお客様です。県民との対話を大切にしているかということは我々が決めることではなく、県民の皆様が決めることです。特に電話応対等は相手の顔が見えないので印象が声だけで伝わります。自分では丁寧に対応しているつもりでも相手方が不快に感じればそれは丁寧な対応ではありません。

私たち行政職員は、丁寧な対応も大切ですが一方で公平中立な立場も求められますので、時として相手の意に添えないことも言わなければならない場面もあります。そういった時に不適切な対応をしてしまうと、これが不祥事に発展してしまう可能性も十分にあります。逆に丁寧な対応をすることによって、相手の意に添わない結果となったとしても、後々も理解と協力をいただけることもあり得るわけです。

日頃何気なくやっていることをきっかけとして不祥事は起こり得ますし、逆にやり取り如何では不祥事を防ぐこともできます。皆様には学校で唯一の行政職員として、学校現場をしっかりと見ていただきたいと思います。

よく“やれ届け出だ、台帳だのと手続きが面倒だ”と言う人もいますが、我々職員や、ひいては家族を守るために不祥事防止に取り組んでいるのだということを繰り返し語っていくことが重要である」とのことでした。

私たち学校事務職員も、普段から不祥事防止に対して高い意識を持つことが必要であると改めて実感させられました。  
(担当：千石)

## ＜講演会＞ 「生活における音楽の本当の楽しさ」

内村寛治氏による講演が行われました。

内村寛治氏は、横浜市立盲学校卒業後、国立音楽大学サクソフォン専攻卒業。1980（昭和55）年より声楽を堀部隆二氏に師事。障害を持つ演奏家としての講演、学校での発声指導を含めた講演、高齢者向け市民大学などの講



師を務めるほか、クラシック以外にもヴォイストレーナーとして、音声障害の「治療」も含め音声指導に当たっています。

第1部では、内村由生子（ゆきこ）夫人のピアノ伴奏で、6曲歌っていただきました。

イタリアの作曲家トスティのもっとも有名な歌「理想の女」

プッチーニの作品、歌劇トスカより「星は光りぬ」

サクソフォンの演奏を入れながら小林秀雄作曲「落葉松」

秋山雅史氏によって有名になった「千の風になって」

イタリアのカンツォーネからナポリ民謡「カタリ」

イタリア語で書かれた「ヴォラーレ」

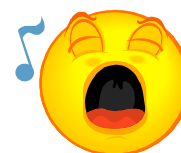
テノールから繰り出される歌声に魅了されました。

第2部では、「生活における音楽の本当の楽しさについて」お話がありました。

### 1. 声を出すことから生まれるもの

大きな声を出すことによってストレスの解消となる。

表情が豊かになり、コミュニケーションに役立つ。



### 2. 美しい声とは何か

誰でも美しい声は持っていて、鍛えることによって美しくなる。

鍛えられた声が美しい。



### 3. 美しい声を出すための呼吸法

腹式呼吸をする。ここで間違っはいけないことは、お腹をふくらますことではなく、お腹を引っ込め、横隔膜を下げることを意識し肺を広げることにより、良い呼吸ができ美しい声になる。

呼吸方法を教えていただいた後、参加者でヴォイストレーニングの実践を行い、発声の練習をしました。最初の頃は声が出なかった参加者も次第に声が出るようになりました。そして「もみじ」「故郷」を参加者全員で合唱しました。

最後に、講演者と一緒に「フニクリ・フニクラ」を大合唱しました。会場に響き渡る歌声、期せずして大きな拍手が沸き起こりました。講師は、花束贈呈に対し、「オーソレミヨ」の独唱で応え、幕を閉じました。

「歌の力」「歌うことの楽しさ」「歌の大切さ」を感じることができた講演でした。

(担当：古川)



## ＜研究発表 第1分科会＞ 研究部 情報リテラシー研究委員会 「新しい学校事務職員STYLE 学校事務と情報リテラシー」

第1分科会は研究部情報リテラシー研究委員会により「新しい学校事務職員STYLE 学校事務と情報リテラシー」のテーマで発表が行われました。

第1部では、「リテラシー」とは「自分で考えて、他者との違いを理解し、考えるための知的な体力であり、基盤的知識を持つこと。」と位置づけ、「情報リテラシー」「学校事務と情報リテラシー」「学校事務職員と情報リテラシー」と発展させています。

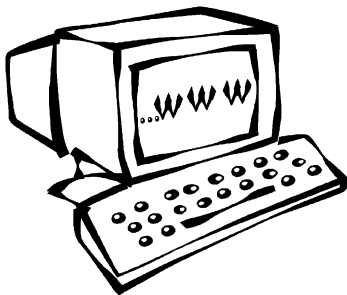
「『情報リテラシー』とは『マスメディアやインターネットなど様々なところから入ってくる膨大な数の情報の中から、自分に必要なものを探しだし、それを真実かどうかもしっかりと見極める能力』あるいは、『コンピュータやネットワークを利用して知識を取り込み理解し処理する能』といわれています。

『情報』をキーワードに学校の仕事を整理し、学校事務職員に期待されるものは何か、学校が忙しい中で学校事務職員として何ができるか、を研究しました。」

まず「コスト」に注目し、学校でかかる「コスト」の具体例を

- どんな仕事にもコストがかかっている。→効率化しなければもったいない。
- 一番高いコストは時間（＝人件費）である。
- 先生方が無駄なく気持ちよく働ける職場がもっとも効率的な職場である。
- 学校経営に参加する事務職員のしごとは、無駄なく気持ちよく働ける職場を作ることではないか。

と示しました。どのような方法で効率化を行っていくかについては、第2部の各論で述べています。



### 第2部 各論

#### 「文書管理について」

ここでは、文書の受付から保管には多くの時間が使われており、コンピュータを利用することによって、どのようなメリットがあるかを検証しています。実際にコンピュータを利用している学校のやり方をビデオで紹介しました。

#### 「学校事務のためのコンピュータ・リテラシー」

そろばんや電卓とにらめっこしていた頃に比べ、コンピュータを利用することにより、ひとつひとつの作業は効率化されています。にもかかわらず、なぜか仕

事は楽になっていません。ここではその原因を究明し、分析しています。

「セキュリティについて」

学校における情報セキュリティの現状と課題を挙げ、学校事務職員が情報リテラシーを身につけることの必要性を説いています。

「学校と著作権を読み解くリテラシー」

著作権を理解し、読み解くリテラシーをすすめています。

「学校事務の新しい役割」

教育機関におけるリスク、危機管理とは？を理解し、学校事務職員にとって何をすべきかを検証しています。

最後に「私たちの仕事は、今後ますます新たな領域に踏み込んでいくように思われます。そこで情報の発信は大きなウェイトを占めることになるのではないのでしょうか。そんな私たちだからこそ、職員の誰よりも情報リテラシーを身につけておきたいものだと思います。」と結ばれています。

15分間の休憩を利用し、情報リテラシー・コスト・効率化・文書管理等について、参加者からQRコードを利用して携帯電話でアンケートを採り、その場で集約・発表が行われました。

「情報リテラシー」を理解することにより、私たち学校事務職員が自分たちの仕事を振り返るきっかけとなる研究発表でした。 (担当：古川・馬場)

## ＜研究発表 第2分科会＞

### 横浜市公立学校事務職員研究協議会（学校施設研究委員会）

#### 「これからの学校施設～安心・安全・子どものために～」



第2分科会は、横浜市公立学校事務職員研究協議会（学校施設研究委員会）から「これからの学校施設～安心・安全・子どものために～」と題し「維持管理」・「安全」・「学習環境」という三つの視点で発表が行われました。

発表に先立ち、助言者 文部科学省大臣官房文教施設企画部参事官（技術担当）付エネルギー対策企画係長 秋本正博氏より、「改正省エネ法について」の解説がありました。

「維持管理」部会の発表では、学校施設・設備ハンドブックの活用について話がありました。「横浜市では学校施設が老朽化しても財政難により建て替えや大規模な修繕をするのが厳しい状況です。そこで施設の長寿命化のために日常的な点検や簡単な修繕をスピーディーに行うなど適切な維持管理をすることが重要で

す。そのために学校にわかりやすい手引きが必要になってきます。横浜市にはYCANといわれる行政ネットワークがあり、2007（平成19）年より教育委員会施設管理課のページに『学校施設・設備ハンドブック』が掲載されていて、学校事務職員だけでなく、管理職や技術員なども活用できるようになりました。今後は学校でより使いやすい形にしていくために内容の充実をはかる」とのことでした。

次に、施設を維持管理していく上での課題をあげています。「学校の長寿命化のためだけでなく児童生徒が安全で安心して学校生活を送れるように施設設備を適切に維持管理することは重要です。しかし、学校現場においては様々な問題点・課題があります。

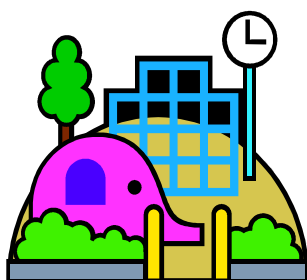
代表的なものに

- ① 施設に対する職員の意識の格差
- ② 機能していない日常点検
- ③ 修繕時期の見極め
- ④ 業者についての情報不足
- ⑤ ガラス修繕
- ⑥ 鍵の管理
- ⑦ その場限りの対応
- ⑧ 撤去による対応



といったものがあげられます。こうした課題に対処するためには実効性のある日常点検が大切となります。横浜市では毎年1回施設点検表を提出しています。また、建築基準法の改正に伴い昨年度から点検マニュアルシート、業者委託により行なわれる保守点検があります。しかし、これらの多くは年1回程度であり、法定点検のため必要最低限しかなく十分とはいえません。ここで重要になってくるのが安全点検、日常点検になります。今後は点検項目の見直しにより充実した実効性のある施設設備の安全点検について研究していきたい」とのことでした。

二つ目の「安全」部会の発表では、学校の安全について話がありました。「学校では、従来、『防犯領域』のテーマが多く取り上げられ、横浜市においても防犯マニュアルを作成・改訂し、各学校への行政指導が行われてきました。また、危機管理についての研修や防犯訓練も行なっています。『学校防犯』については今



後も積極的な取り組みが必要ですが、部会としてはそれにとどまらず、多発する学校事故を検証しながら施設を見直し、さらに新たな課題について研究しています。これまで、横浜市では、学校事故の発生に相まって、さまざまな施設関連の調査がされてきました。本来であれば、『対処』の前に『予防』

が必要であり、起こったことによる『対処』だけでは安全性を高めることはできません。しかし、子どもたちは予測がつかない行動をとる場合があります。大人の予測と想像で施された予防を超える場合があります。横浜市は、こうして起きた過去の学校事故について調査し、予算措置や更なる調査を経て学校施設の改善が行われてきました。

学校施設は学校開放事業等多岐にわたる利用がされています。そのような学校施設を魅力ある安全性の高いものにすることが財務担当者として学校で勤務する事務職員の大きな使命です。私たちは学校事務職員として安全で安心な学校をつくるよう学校施設の整備・点検に関わりをもつ必要がある」との提起がありました。

三つ目の「学習環境」部会の発表は、『子どものための居場所づくり』をテーマにしたものでした。まず、『子どものための居場所』とは、子どもたちの不安感を和らげたり、安らぎを与えたり、楽しい活動ができるようなスペースとしました。しかし、児童数が多く、空き教室や工夫できるスペースもない、改修を行う予算もほとんど無い、といった現状があります。

部会では、学校施設における現状や課題を抽出し、施設見学や事例の収集をするなかで空間の活用方法やちょっとした工夫で、学校を子どもたちが魅力を感じる空間に変えられることがわかりました。また、必ずしも高い費用をかけなくても教育効果が期待できることもわかりました。そこで、さまざまな事例をもとに『新設』『修繕』『緊急』『長期的・計画的』という軸を用いて『学校工事マップ』を作成しました。発表では具体的な事例をもとに4つのフィールドに当てはめて検証が行われました。学習環境には高額な費用をかけて整備されるものもあれば、日常的な危険箇所の点検等、保全という観点から整備されるものもあります。地域における教育資源として、子どもが魅力を感じられるような『居場所』をつくるために施設面からどのようなアプローチができるか研究を重ねていきたい」との発表がありました。

今日の学校施設の課題とその解決策を探る今回の発表はよりよい学校施設を創っていく上で貴重な提案でした。 (担当：齋藤)

#### 『編集後記』

はじめてのお使い。ならぬ、はじめての編集。今までは、I母さん(元・広報部員)が温かいまなざしで見守って助けてくれたのに、今回はヨチヨチ(ヨボヨボ)歩きながら一人で頑張ってみました。アナログな私は、分からないところがあると電話で問い合わせをしたり、ファックスで原稿を送ってもらおうとしたり。インターネットを利用して簡単にできるのに。おかげさまで広報部員の学校には私の名前を言うだけで、事務に繋がるようになりました。こんな私でも情報リテラシーは身につくのかな? (F)